

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	B型肝炎	Clin Infect Dis. 52(2011)624-632	オカルトB型肝炎(OHB)供血者によるHBVの伝播性に関する報告。ヒト肝細胞を移植したキメラマウス4匹に対し、2名のOHB供血者の血清サンプルを接種し、血清および肝臓HBV-DNAレベルを測定したところ、1匹で接種から5週間後および7週間後に血清HBV-DNAが検出された。また、OHB供血者10名(うち9名はHBs抗原陽性)から遡って特定した受血者49名についてHBV感染の検査を行ったところ、陽性であったのは4名であった。そのうち3名では供血者とのHBVゲノム相同性から輸血による伝播が否定され、1名が輸血によるHBV感染と判定された。これらの結果より、OHB供血者由来の血液で感染する可能性があることが示唆された。しかし、ヒトにおけるHBVの伝播リスクは、特にHBs抗原陽性のOHB供血者からの血液製剤では、低かった。
2	B型肝炎	J Med Virol. 83(2011)791-795	B型肝炎ウイルスの母児感染に関する報告。HBs抗原陽性の母親から生まれた214人の新生児において、出生時または子宮内でのHBV感染が抗HBsヒト免疫グロブリン(HBIG)及びB型肝炎ワクチン(HBワクチン)により効果的に予防できるかどうかを判断するために行い、HBs抗原を測定した。母児感染は約4.7%(10/214)で、内訳は出生時感染は3.7%(8/214)、子宮内感染は0.9%(2/214)であった。母児感染のリスクは、母親のHBs抗原又はHBV DNAレベルに応じて上昇した。36カ月の追跡調査後、出生時感染症例のすべてがHBs抗原陰性になり、子宮内感染症例のすべてがキャリア化した。これらの結果により、HBIG及びHBワクチンは、出生時感染の予防には効果があったが、子宮内で感染した新生児には十分でないことが示された。
3	B型肝炎	Vaccine. 28(2010)7723-7730	オランダにおける公的な予防接種プログラムに関する報告。現在オランダではB型肝炎ウイルス(HBV)感染防御のため特定のリスク群の小児(母親がHBVキャリア等)を対象に予防接種をする方針がとられている一方で、WHOでは全小児に対する接種を奨励している。そこでオランダにおける対象を限定したB型肝炎予防接種プログラムを評価した結果、対象となっているリスク群に予防接種を受けていない者がいることが明らかとなった。このことから、現在の方針では感染防御として不十分であり、ユニバーサルワクチン接種を全小児に行い、さらにリスク群へ適切な予防接種プログラムを行う事で、公衆衛生上の利益が増す可能性が示唆された。
4	HIV、結核	Int J Tuberc Lung Dis. 14(2010)1066-1068	インドにおける、HIVと結核の制御プログラムに関する報告。インドの国家結核制御プログラム(RNTCP)と大規模HIV予防プロジェクトの共同作業として、HIVハイリスクグループへの結核スクリーニングが推進されている。2007年7月から2008年9月までにHIVハイリスクグループの124,371人を対象にしたスクリーニングにより、3,749人に対して結核診断のため検査が行われ、849人が結核と診断されたことが報告された。
5	HIV、結核	PLoS ONE 2010;6:e10736	中国におけるHIV-結核同時感染に関する報告。中国におけるHIV-結核同時感染の有病率を検討するために、MEDLINE又はChinese BioMedical Literature Databasesから関連する論文を抽出し、メタアナリシスを行った。その結果、HIV/AIDS群における結核の有病率は7.2%であり、AIDS患者に限定すると22.8%であった。また、結核患者のうち0.9%がHIVに感染していると算出された。これらの結果より、HIV患者に対して結核のスクリーニングをすることが有益と考えられる。
6	レトロウイルス(XMRV)	Retrovirology. 2011;8:20	前立腺癌(PC)、慢性疲労症候群(CFS)と異種指向性マウス白血病ウイルス関連ウイルス(XMRV)に関する報告。輸血時のXMRV感染のリスクを調査するために、健康な供血者500例、PC患者67例、CFS患者100例における血液中抗XMRV蛋白抗体(抗Gag抗体)を検査した。その結果、3群において性別や病状に関係なく、一部が抗Gag抗体を保有していた(1.6-3.0%)。また、血液中XMRV-DNAを検査したところ、全CFS患者において陰性であった。抗Gag抗体陽性のPC患者においてはXMRV-DNA陽性患者が存在したが、感染性のあるXMRVは分離できなかった。これらの結果より、日本においてPC又はCFSとXMRV感染の間には関連が確認されなかった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
7	インフルエンザ	MMWR. 60(2011)705-706	ブタインフルエンザウイルス(A/H3N2)のヒト-ヒト感染に関する報告。米国において、2010-2011年シーズンに新規インフルエンザAウイルスとしてブタインフルエンザウイルス(A/H3N2)感染症例が5例報告された。2例は入院したが、5例全てが回復した。このうち2例は親子の症例であり、父親は発症前にブタと接触していたが、子にはブタとの直接接触はなく父親との接触により感染した可能性が高かった。
8	インフルエンザ	ProMED-mail 20101109.4062	ナミビアにおけるインフルエンザ(A/H1N1): ケートマンスフープにおいて学校生徒1,300人にインフルエンザ様症状がみられ、うち6例で血液検査を行ったところ、5例がインフルエンザウイルス(H1N1)陽性であった。
9	インフルエンザ	ProMED-mail 20101231.4612	ロシアにおけるインフルエンザ(A/H1N1): サラトフの学校において、2010年12月21日から28日にかけて57人中12人がインフルエンザ(A/H1N1)診断が確定し、ウイルスによる呼吸器感染発生率が高いため学級閉鎖が行われた。また、サラトフでは2010年のインフルエンザ罹患率が2歳以下で6.5%、7-14歳で2.4%と、どちらも前年までの罹患率平均より高かった。
10	クリミア・コンゴ出血熱、デング熱	ProMED-mail 20101102.3974	パキスタンにおける出血熱の報告。 [1]シンド州において、クリミア・コンゴ出血熱(CCHF)ウイルスが2名の患者より発見された。 [2]カイバル・パクトウンクワ州において、CCHFとデング熱に感染した患者4名が死亡した。 [3]CCHFにより死亡したパンジャブ州の12名の患者について、パキスタン保健省が把握していなかったことが報告された。
11	クリミア・コンゴ出血熱	ProMED-mail 20110123.0285	インドにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)に関する報告。 [1] インドのAhmedabadにおいて、CCHFの症例が2例報告された。今回の報告をもって、確定症例数は5例となった。 [2] インドのAhmedabaより採取された多くのダニからCCHFウイルスが検出された。ヒトと異なってCCHFによりダニは死滅せず、ウイルスの拡大が懸念される。
12	ニパウイルス	Epidemiol Infect. 138(2010)1630-1636	バングラディッシュにおけるニパウイルス(NiV)感染の報告。NiVのヒト-ヒト感染について検討するために、バングラディッシュにてNiVに感染した患者1例とその患者と身体的接触のあった知人14例の動向を調査した。その結果、14例のうちNiV感染を発症したのは6例(43%)であった。未感染群と比較して感染群ではNiV患者の咳嗽中に同室に滞在していた割合が高かった。NiVの感染拡大を防ぐためには、患者との身体的接触を最小限とすることが求められる。
13	口蹄疫	OIE 2011 February 28 ProMED-mail 20110302.0686	中国における口蹄疫: 発生日 2011年2月19日、最初の確定日 2011年2月28日、報告日 2011年2月28日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年2月19日にXINJIANGで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタについて、感染の疑い3,941頭、確定例は275頭、死亡0頭、屠殺3,941頭であった。
14	口蹄疫	OIE 2011 January 11	ブルガリアにおける口蹄疫: 発生日 2011年1月4日、最初の確定日 2011年1月4日、報告日 2011年1月11日、原因 口蹄疫ウイルスO型。2011年1月4日にBURGASで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ウシ194頭、ヤギ149頭、ヒツジ117頭、ブタ72頭、確定例ウシ1頭、ヤギ12頭、ヒツジ14頭、ブタ8頭、死亡例0頭、屠殺例0頭であった。
15	口蹄疫	ProMED-mail 20110218.0537	ベトナムにおける口蹄疫: 発生日 2011年1月31日、確定日 2011年2月16日、報告日 2011年2月17日、原因 口蹄疫ウイルス。2011年1月31日にLONG ANで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタについて、確定例188頭、死亡例86頭であった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
16	パルボウイルス	Transfusion. 2011 Feb 18.	輸血用血液製剤による症候性パルボウイルスB19感染に関する報告。1999年から2008年までの期間に、日本赤十字社のヘモビジュランスシステムを通じて、輸血によるヒトパルボウイルスB19感染(TT-B19V)の可能性のある臨床報告を収集したところ、成分輸血に由来するTT-B19V患者8人が同定された。4人が持続性の貧血と赤芽球癆を発症し、1人が汎血球減少症を発症した。これら5人の患者の基礎疾患は、悪性血液疾患又は溶血性疾患のいずれかであった。これらの症例について原因製剤中のウイルス量は $10^3 \sim 10^8$ IU/mLの範囲であった。血液疾患に罹患しておらず外科的治療を受けた患者2人は、マイルドな症状を示しただけであった。これらの結果より、重篤なB19関連疾患を発症するかどうかは、輸血した製剤中のウイルス量ではなく、患者の基礎疾患に依存することが示された。
17	パルボウイルス	Vox Sanguinis. 100(2011)351-358	血漿由来凝固因子製剤に含まれるノンエンベローブウイルス(パルボウイルスB19、ヒトボカウイルス、ヒトパルボウイルス4、A型肝炎ウイルス、E型肝炎ウイルス)についての報告。10種類の血漿由来凝固因子製剤及び3種類の組換え凝固因子製剤において、それぞれ3つ以上のバッチを用い5種類のノンエンベローブウイルスの核酸の存在を定量PCRによって調べたところ、1社の第Ⅷ因子/フォン・ヴィルブランド因子製剤の2バッチでパルボウイルスB19の遺伝子型1、2及び3のDNAが検出された。この結果より、凝固因子濃縮製剤中に他のノンエンベローブウイルスは検出されないものの、パルボウイルスB19については低いレベルで検出された。全てのパルボウイルス遺伝子型の検査を血漿プールで検査することが支持される。
18	ウイルス感染	BMC Veterinary Research 2010,6:30	新規の東欧亜型3型の豚繁殖・呼吸障害症候群ウイルス(PRRSV)の病因と抗原性の特徴が報告された。PRRSVは、欧州と北米遺伝子型に分類される。東欧で分離されたPRRSV分離株は、欧州遺伝子型に分類されているが、いくつかの亜型が存在する。今回、研究者らは、ベラルーシの養豚場1か所から、新規のPRRSV株(Lena)を発見し、解析の結果、新規の東欧亜型3型、高病原性であり、臨床症状は重篤である。遺伝子および抗原性から欧州亜型1のレリスタッドや北米US5の株と異なる。
19	ウイルス感染	J Clin Virol. 50(2011)130-135	帯状疱疹を呈する患者における水痘帯状疱疹ウイルス(VZV)によるウイルス血症に関する報告。帯状疱疹が消退した後のVZVウイルス血症の動態とウイルス量、及び帯状疱疹後神経痛(PHN)発症との関連性について調査された。血液サンプルは活動性の帯状疱疹を呈する患者63人を対象として前向き調査のベースライン時である1カ月、3カ月、6カ月時に採取された。急性期には全ての患者の血液においてVZV DNAが検出できた。6カ月の患者血液でも、レベルは有意に低下したものの、91%でVZV DNAが検出できた。前駆症状の既往歴やベースライン時に強い痛みのあった患者は、抗ウイルス薬を服用している患者や免疫不全の患者と同様に、PHNから回復するまでの時間が長かった。ウイルスDNA量は一貫してPHNのリスク因子を有する患者で多かった。また、ウイルスDNA量が多いほど、回復までの時間が長かった。これらの結果より、急性帯状疱疹に続いてVZVの増殖が持続すること及び高ウイルスDNA量がPHNのリスク因子となることが示唆された。
20	ウイルス感染	MMWR. 59(2010)1393-1399	野生型ポリオウイルスの輸入に関する報告。ポリオフリーが宣言されて以降初めて、欧州地域(タジキスタン、ロシア、トルクメニスタン、カザフスタン)において野生型ポリオウイルスの輸入例が2010年に476例報告された。ポリオフリー各国においては、ワクチン接種率の向上とポリオ監視システムの構築が求められる。
21	ウイルス感染	N Engl J Med. 364(2011)1523-1532	中国における新規ブニヤウイルスに関連する血小板減少を伴う発熱(SFTS)についての報告。中国の6省で、SFTSの患者から血液検体を得て、培養細胞への接種によるウイルス分離及びPCRによるウイルスRNAの検出を行った。病原体の特性を、電子顕微鏡検査と核酸配列決定で明らかにした。患者の血清検体におけるウイルス特異的抗体レベルを分析した。その結果、発熱、血小板減少、白血球減少と多臓器機能障害を呈した患者から、ブニヤウイルス科フレボウイルス属の新しいウイルス(SFTSブニヤウイルス)が分離された。6つの行政区のSFTS患者171人において、SFTSウイルスRNAと抗ウイルス抗体のいずれかまたは両方が認められた。疾患急性期及び回復期両方の血清検体がある患者35人について検体を調査したところ、回復期中和抗体レベルの上昇が見られ、SFTSウイルスに特異的な免疫応を示すことが明らかとなった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
22	ウイルス感染	ProMED-mail 20101007.3639	各国におけるポリオの報告。[1] 2010年1月～9月、アフガニスタンにおいてポリオ症例が18例報告された。当初タジキスタンからウイルスが移行した可能性が推測されたが、検査によりパキスタンから輸入された可能性が示唆された。[2] 2010年1月～9月、アンゴラにおいてポリオ症例が24例報告された。アフリカ全土で唯一のアウトブレイクであり、アンゴラ内とコンゴへ拡大しつつある。
23	ウイルス感染	ProMED-mail 20101008.3650	各国におけるポリオの報告。[1] 2010年1月～9月、インドにおいてポリオが39例報告された。[2]2010年に報告された世界のポリオ症例は、10月5日時点で706例であった。
24	ウイルス感染	ProMED-mail 20101022.3820	各国におけるポリオの報告。 [1] パキスタンにおける2010年のポリオ症例は10月14日時点で78例であり、2009年と比較して2%増加した。 [2] 2010年に報告された世界のポリオ症例は、10月19日時点で732例であった。
25	ウイルス感染	WHO/GAR/Disease Outbreak News Most recent news items 2010.11.13	タジキスタン、ロシアにおけるポリオの報告。中央アジアのアウトブレイクの中心地であるタジキスタンでは野生ポリオウイルス1型(WPV1)が458例に確認されたが、2010年7月3日以降新規症例は確認されていない。しかし、カザフスタンにおいて麻痺を発現した小児1例から分離されたポリオウイルスを解析した結果、タジキスタンよりウイルスが蔓延していることが確認された。一方ロシアにおいても、タゲスタンで2010年9月25日にポリオ症例1例が確認され、計14例となり、ポリオウイルス伝播の進行が確認されている。
26	ウイルス感染	ProMED-mail. 20110101.0007	アメリカにおけるパラポックスウイルスの報告。2009年、アメリカ東部において、オジロジカに内臓摘出加工を施したシカ狩猟者2例がパラポックス感染と診断された。
27	ウイルス感染	The Weekly Epidemiological Record. 85(2010)357-364	急性弛緩性麻痺(AFS)サーベイランスの実績及びポリオの発生に関する報告。2010年8月17日時点でWHOが受理したデータとして、世界各国におけるAFS症例は53,038例、ポリオ確定症例(野生型ポリオウイルス)は634(612例)例であった。ポリオの発生はアフリカ地域、東地中海地域、欧州地域および東南アジア地域において見られた。
28	ウイルス感染	日本獣医師会雑誌. 64(2011)287-293	伝染性喉頭気管炎(ILT)ウイルスの生ワクチンを介した感染に関する報告。千葉県探卵鶏農場にて、ILTウイルスの弱毒生ワクチン接種群と未接種群が隣接するケージで飼育されていた。2009年1月、未接種群の30%が流涙、顔面腫脹、産卵低下等を示し、そのうち6例を剖検したところ、眼窩下洞や鼻腔へのチーズ様物の貯留、鼻粘膜の肥厚がみられ、眼窩よりPasteurella multocida (P. multocida) 莢膜抗原A型とILTウイルスが分離された。このILTウイルスは接種群のワクチン株と一致していた。なお、当該農場では過去30年にILTの発生がなく、接種群は産卵ピークの状態であった。以上のことから、接種群が産卵ストレスにより排泄したILTワクチン株が未接種群に伝播し、さらにP. multocidaの混合感染により症状が顕在化したと考えられた。
29	クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med. 17(2011)175-178	異常プリオン(PrP ^{Sc})の検出法に関する報告。QUIC法を用いたPrP ^{Sc} 増幅技術は超音波処理の必要がないためamyloid seedingアッセイ法より簡便であるが、CJD検体の脳脊髄液(CSF)から高感度にPrP ^{Sc} を検出することはできない。そのため、QUIC法を改良したreal-time quaking-induced conversion(RT-QUIC)法を開発したところ、希釈したCJD脳ホモジネートにおいて1fg以上のPrP ^{Sc} を48時間以内に検出することが可能であった。また、日本の18検体及びオーストラリアの30検体のCSFを用いた盲検試験を行ったところ、感度は80%以上、特異性は100%であった。これらの結果から、RT-QUIC法を用いたCSFの検査は早期の迅速かつ特異的なCJDの検出を可能とし得ることが示唆された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
30	クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2011;6:e17815	尿性ゴナドトロピン製剤中のプリオン蛋白質に関する報告。古典的なプロテオミクスのアプローチにより、尿性ヒト絨毛性ゴナドトロピン(u-hCG)製剤中に33種類、高純度尿性ヒト閉経期ゴナドトロピン(hMG-HP)製剤中に34種類のゴナドトロピン以外の蛋白質が特定された。高度なプロテオミクスの手法を用いた結果、hCG、hMG、hMG-HP製剤中にヒトプリオン蛋白質のペプチドを検出したが、遺伝子組換え製剤中には検出しなかった。
31	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CCDR Weekly Vol.4, Issue10, Mar 11, 2011	カナダにおける異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)の報告。Public Agency of Canadaは、カナダ2例目のvCJD症例を確認した。患者は中東出身で2010年にカナダへ移住した。vCJDの潜伏期間は約10年と考えられていること、また患者はカナダ到着前にvCJD症状がみられていたことから、2003年に発生した1例目と同様に国外にて罹患したと考えられた。なお、家族との面談から本症例はこれまでに供血や輸血の経験はないことが確認された。
32	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	http://www.inspection.gc.ca/english/anim/disemala/rep/2011bseesbe.shtml Reuters Canada. Mar 4, 2011	カナダにおけるBSEの報告。2011年2月18日、CFIAはカナダ18例目のBSE症例を確認した。感染動物はアルバータ州で飼育されていた77ヵ月齢の乳牛であった。屠殺され、カナダで食肉および畜産飼料として流通していない。
33	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Journal of General Virology, 92(2011)467-476	PrP ^{Sc} が検出されない舌及び鼻粘膜におけるBSE感染性についての報告。BSE感染末期のウシから様々な部位の組織ホモジネートを作成し、プリオン蛋白質(スクレイピー関連繊維)の精製や免疫組織化学法、PMCA法を用いてPrP ^{Sc} の高感度の生化学的手法ではPrP ^{Sc} が検出されなかった。一方、ウシプリオン蛋白を過剰発現させたトランスジェニックマウスに投与したところ、PrP ^{Sc} が陰性である舌及び鼻粘膜の感染性が確認された。この結果より、感染末期のウシの末梢組織にBSE感染性が存在する可能性が示唆された。
34	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Plos Pathogens 7(1); e1001257; 2011 ProMED-mail 20110211.0473	エアロゾル化したプリオンの感染性についての報告。同系交配、異種交配の野生型マウス及びPrP ^C を過剰発現するtga20トランスジェニックマウスをエアロゾル化したプリオンに曝露したところ、効率的なスクレイピー発症が観察された。神経で選択的にPrP ^C を発現するNSE-PrPトランスジェニックマウスや、Bリンパ球、Tリンパ球、NK細胞、濾胞性樹状細胞又は補体を欠くマウスにもエアロゾル化プリオンに対する感受性があった。また、感染マウスの脳に含まれるPrP ^{Sc} の注入もスクレイピーを発症させた。プリオンのエアロゾル感染は効率が高く、リンパ器官での増殖は必須でなく、中枢系に直接侵入する可能性が考えられる。
35	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20110406.1066	[1] イギリスにおける異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)の報告。vCJDの感染又は感染疑いによる死亡例は2011年4月4日時点で171例である。4例の生存患者を含めるとvCJD患者は合計175例。2000年に死者が最多の28名となって以降、2008年1名、2009年3名、2010年3名と近年では減少している。 [2] カナダにおけるvCJDの報告。カナダ2例目のvCJD疑い症例が確認された。2003年に確認された1例目の症例同様に国外にて罹患したと考えられている。
36	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Psychiatry and Clinical Neurosciences. 64(2010)652-658	香港における異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)の報告。香港の33歳女性がvCJD疑いと報告された。症状としては胸部、背部、四肢の灼熱感が、臨床的には興奮性、訥弁、運動失調、ジストニア姿勢、認知症が認められた。CSF14-3-3蛋白、扁桃腺生検、視床枕兆候は陽性であった。イギリスへの居住歴や渡航歴より、症例はイギリスから持ち込まれたと考えられている。

ID	感染症(PT)	出典	概要
37	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet. 377(2011)487-493	異型クロイツフェルトヤコブ病におけるプリオン感染の検出(血液検査)に関する報告。vCJDプリオン感染を検出するための血液ベースアッセイについて、その感度と特異性を確定するために、疾患に関連するプリオン蛋白を捉えて濃縮するための固体結合マトリックスを開発し、この方法を表面結合物質の直接免疫検出法と合わせた。また、内因性vCJDを検出するためのアッセイの感度と特異性を確定するために、vCJD患者21人、孤発性CJD患者27人、その他の神経性疾患患者42人、正常対照群100人からの全血190検体を盲検化したパネルを分析した。その結果、 10^{-10} 倍に希釈した外因性(外から添加した)vCJDプリオン感染脳と、 10^{-6} 倍に希釈した正常脳を識別することが出来た。アッセイの感度は、過去に報告されていたものよりも桁違いに高かった。また、盲検化したパネルのうち15検体が陽性であった。15検体はすべてvCJD患者からのものであり、vCJDのアッセイ感度が71.4%、特異性が100%であることが示された。これらの研究によって症候性の患者におけるvCJD診断のための血液検査の基本を確立し、無症候性のvCJDプリオン感染のための大規模なスクリーニング検査の開発を見込むことができた。
38	炭疽	http://ibnlive.in.com/generalnewsfeed/news/anthrax-scare-in-kandhamal/723458.html	インドにおける炭疽の報告。人口約120人のインドオリッサ州Guchua村において炭疽のアウトブレイクが発生し、小児を含む少なくとも12人が感染した。このうち2人は重篤となり入院中で、他の患者は自宅で隔離されている。
39	炭疽	OIE 2010 September 28	コロンビアにおける炭疽:発生日 2010年4月27日、最初の確定日 2010年5月23日、報告日 2010年9月28日、原因 炭疽菌。2010年4月27日にラ・グアヒーラで炭疽のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ヒツジ12頭、ブタ1頭、確定例ヒツジ1頭、屠殺例0頭であった。
40	結核	China J Orthop & Trauma. 23(2010)485-487	中国における、薬剤抵抗性脊椎結核に関する報告。中国(北京)において、2005年3月から2009年4月の期間、薬剤抵抗性結核における外科的療法の治療効果を検討するために、薬剤抵抗性脊椎結核患者60例を対象に診療データをレトロスペクティブに調査した。その結果、再発例が2例見られたが、どちらも2回目の手術で回復した。また、神経障害を合併していた34例のうち25例は手術後に神経機能が回復、9例は改善が見られた。
41	結核	Clin Exp Rheumatol. 28(2010)679-685	関節リウマチ患者における結核リスクに関する報告。香港において、2004年から2008年の期間、慢性関節リウマチ患者2441例を対象に結核罹患状況をレトロスペクティブに調査した。活動性結核発症は20例(0.8%)であり、年齢及び性別をマッチさせた対照群と比較して関節リウマチ患者では発症率が高かった。特に、TNFブロッカーによる治療を受けていた81例では4例(4.9%)、発生率比も有意に高い頻度で発症を認めた。
42	結核	Dig Dis Sci. 56(2011)188-196	クローン病と腸結核の鑑別に関する報告。クローン病と腸結核を鑑別する臨床症状と内視鏡所見を検討するために、2003年6月から2009年2月に得られたクローン病症例130例と腸結核122例をレトロスペクティブに調査した。その結果、臨床症状としては、血便、腸手術、肛門疾患、肺結核、腹水の有無や、皮膚テストが有用であることが示唆された。内視鏡所見では、直腸病変、縦走潰瘍、敷石像、回盲弁性状、蚕食性潰瘍の有無が有用であった。
43	結核	Int J Gynecol Obstet. 109(2010)242-244	インドにおける、性器結核患者の腹腔鏡手術に伴う合併症についての報告。2006年1月から2009年7月に腹腔鏡手術を実施した女性患者の中で、性器結核患者(87例)と性器結核ではない患者(226例)で手術中の合併症発現率を比較した。その結果合併症発現率は性器結核患者において高く、特に骨盤不可視、出血、腹膜炎において有意に高かった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
44	結核	J Microbiol Immunol Infect. 43(2010)291-300	台湾における脊椎結核に関する報告。台湾南部の病院で診療を受けた患者を対象に、2002年1月から2008年12月まで、脊椎結核の発生状況についてレトロスペクティブに調査を行った。その結果、総計3,888例の結核患者のうち、脊椎結核は48例(1.2%)であった。主な臨床的徴候は背部痛、神経異常、発熱で、62.5%の患者が外科手術を受けていた。平均治療期間は11.4ヵ月で、治療期間の長さは治療成績と関連がなかったが、外科手術を受けた患者は回復する確率が高かった。
45	大腸菌性胃腸炎	http://www.47news.jp/CN/201106/CN2011061301000034.html	欧州におけるO104感染に関する報告。欧州で腸管出血性大腸菌O104の感染が拡大している問題で、ドイツ保険当局は死者が4人増えて35人になったと発表した。ドイツ当局は同国ニーダーザクセン州の農場で生産されたモヤシ等の発芽野菜から同じタイプの菌を検出し、感染源であると特定した。
46	大腸菌性胃腸炎	http://www.cnn.com/p/world/30003049.html	欧州におけるO104感染に関する報告。欧州で腸管出血性大腸菌O104の感染が拡大している問題で、ドイツ保険当局は死者が4人増えて35人になったと発表した。ドイツ当局は同国ニーダーザクセン州の農場で生産されたモヤシ等の発芽野菜から同じタイプの菌を検出し、感染源である可能性が高いとして回収を指示した。ただ、農場が汚染された経路は明らかとなっていないとした。
47	大腸菌性胃腸炎	m3.com「医療ニュース」2011年7月6日付	欧州におけるO104感染に関する報告。欧州で腸管出血性大腸菌O104の感染が拡大している問題で、EU食品安全管理当局はドイツ産発芽野菜にO104が混入した経路としてエジプトから輸入されたフェヌグリークという植物の種子の可能性が高いとした。
48	ペスト	ProMED-mail 20100926.3490	中国(チベット)におけるペストの報告。チベットにおいて5名の患者がペストと診断され、そのうち1名が肺ペストにより死亡したことが、2010年9月23日チベット保健当局より発表された。
49	細菌感染	AABB Annual Meeting and TXPO. 2010 Oct.9-12	供血者におけるBartonella henselae菌血症に関する報告。ブラジルにおいて、供血者500例に対しBartonella菌の感染や曝露を調査するために問診及び血液培養を行ったところ、Bartonella henselaeによる感染が2例確認された。2例ともイヌに接触しダニに咬まれており、1例はネコおよびコロモジラミとも接触していた。
50	細菌感染	MMWR. 60(2011)401-405	ブタのヘッドチーズに関連したリステリア症の報告。アメリカのルイジアナ州公衆衛生局は、2010年1~6月にリステリア症14例の報告を受けた。このうち8例の血液から、同一菌株と推定されるListeria monocytogenesが分離された。疫学及び環境検査により、3例が同一のブタヘッドチーズを摂取していたことが判明し、製品の培養検査の結果リステリア菌が分離され感染源として特定された。ルイジアナ州は当該ヘッドチーズと関連製品の回収を行った。
51	細菌感染	Transfusion. 51(2011)531-538	アフレーシス血小板細菌汚染を防止するための皮膚消毒に関する報告。血小板採取時の細菌汚染を防止するための皮膚消毒について、2つの方法の効果を評価した。試験群として3つの血液センターでワンステップ2%クロルヘキシジン/70%イソプロピルアルコール(2%CHX/IPA)皮膚消毒法を評価し、対照群として32の血液センターでツーステップのポビドンヨード(P-I)法を用いた。細菌培養の結果について比較したところ、試験群は、初回細菌培養陽性率・培養真陽性率・培養偽陽性(汚染)率の全てで低い傾向にあった。2%CHX/IPAシングルステップ皮膚スワブは、ツーステップP-I皮膚消毒法より効果があり、敗血症性輸血副作用のリスクを低下させる可能性があることが示唆された。
52	細菌感染	病原体微生物検出月報. Vol.31 No.12	日本の路上生活者におけるBartonella quintana検出に関する報告。東京と大阪の路上生活者(それぞれ491例、10例)から採取したコロモジラミからゲノムDNAを抽出しB. quintanaの同定を行ったところ、それぞれ17例、6例において遺伝子が検出された。また、東京の路上生活者151例に対して血液検査を行ったところ、一般人(200例)に比べB. quintana抗体価が有意に高かった。これらの結果より、塹壕熱が特殊な集団において蔓延している可能性が懸念された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
53	真菌感染	Clin Infect Dis. 52(2011)e94-98	臓器移植によるCryptococcus neoformansの伝播に関する症例報告。1人のドナーから臓器移植を受け、クリプトコッカス症と診断を受けた3人のレシピエントについて報告された。肝臓を移植された患者と片方の腎臓を移植された患者はクリプトコッカス敗血症と肺炎を発症した。もう片方の腎臓を移植された患者はクリプトコッカス敗血症と髄膜炎を発症した。腎臓を移植された2人の患者は、抗真菌治療により回復した。多遺伝子配列タイピングによりレシピエント分離株4つを検査したところ、それらが同じ対立遺伝子を有する事を認めた。このドナーは移植時、未解明の神経病態であり後の剖検によりクリプトコッカス髄膜炎であったと診断されていた。
54	トリパノソーマ症	ABC Newsletter # 46. Dec 17; 2010	米国におけるT.cruzi感染率についての報告。米国赤十字社ではT.cruzi抗体検査について、高有病率地域では全供血を検査対象とし、その他の地域では1回でも陰性結果を受けた供血者は追加検査の対象としない体制がとられている。346万人の供血者を観察した結果、陽転化した供血者は1例も同定されず、95%信頼区間の上限信頼期間は0.08例/10万人年であった。この結果は設定された許容リスク基準よりも低く、現在の体制は受血者の安全性を損なうことなく、必要な検査の数を低減していると示唆された。
55	その他	http://www.ema.europa.eu/ema/index.jsp?curl=pages/regulation/general/general_content_000388.jsp&mid=WC0b01ac0580032ec8&url=menus/regulations/regulations.jsp&jsenabled=true	血漿分画製剤の添付文書において感染性病原体に関する警告の標準的な記載を示すドラフトガイドラインである。今回の改訂によりイントロダクションのみが変更され、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)に関連する改訂と、添加剤としてのアルブミンに関する追記があった。 <ul style="list-style-type: none"> •SmPC 4.4, 項の“Special warnings and special precautions for use”に感染性病原体に関する警告を記すべきである。 •vCJDについては、特定の記述を行うかについて検討したが、CHMP Position Statementによる情報提供を継続するとの結論になった。 •確立された製造工程で欧州薬局方の規格どおりに製造されたアルブミンについて、ウイルス感染の報告はない。医薬品の添加剤としてアルブミンが使用された場合、アルブミンに関する警告の記載は不要である。
56	その他	The News (Karachi). Mar 11, 2011	パキスタンにおける家畜突然死の報告。パキスタンのGadap townにおいて、3日間で50頭以上の家畜(主に雄ウシ)が原因不明の病気で死亡した。この現象は数カ所の牧場で同時に起こっており、関係筋によると水の汚染又は昆虫媒介による感染症が疑われているとのことであった。